

個別課題

(生活困窮者自立支援制度関係)

番号	①課題名	②課題の趣旨目的	③想定される事業内容 (具体的内容、手法、成果物及び活用方法)	④上限額
1	緊急小口資金等の特例貸付の評価に関する調査研究事業	令和2年3月から令和4年9月の間、新型コロナウイルス感染症の影響により収入減少があった世帯の一時的な資金需要に対応するため、生活福祉資金貸付制度の緊急小口資金及び総合支援資金(生活支援費)に特例措置を設け、従来の低所得世帯の要件を緩和した特例貸付を実施したところ、今般実施した特例貸付の実施状況、実施内容、影響等について検証・評価を行う。	<p>1. 具体的内容・手法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 概要           <ul style="list-style-type: none"> <li>▶緊急小口資金等の特例貸付の政策効果に関して、適切な研究デザインの構築を行った上で、定量的な検証と評価を行う。特に、借受人の生活(例: 収支・家計の状況、就労・居住の状況等)に与えた影響について、償還状況も勘案した上で分析し、制度の在り方について具体的な示唆を得る。さらに、時間をかけてデータ収集等を行った上で分析を行う必要がある事項について検討した上で、将来的にその分析を行うために適切な研究デザインを提案する。</li> </ul> </li> <li>● 手法とデータ           <ul style="list-style-type: none"> <li>▶先行調査等の精査・分析を行うほか、特例貸付が借受人の生活に与えた影響について、いくつかの社会福祉協議会から聴取する等により、モデル的に実態把握を行う。</li> <li>▶当該政策の評価基準となる短期・中長期のアウトカムを提案する。</li> <li>▶提案したアウトカムに関する当該政策の効果について、統計的因果推論などの学術的な検証に耐えうる手法を用い、定量的に検証する。分析には、社会福祉協議会が保有する借受人に関するマイクロ・データ等を用いるほか、必要に応じて官民が保有する統計調査の個票や業務データ等、幅広いデータの活用可能性を検討する。</li> </ul> </li> <li>● 分析を踏まえた示唆           <ul style="list-style-type: none"> <li>▶既存データの分析から得られた結果に基づき、給付と貸付のバランス、貸付の金額・回数・対象者の要件等、制度の在り方・論点について整理する。</li> <li>▶既存データでは分析が難しい論点について、追加的なアンケート調査の設計などを含めた適切な研究デザインを構築する。</li> <li>▶将来同様の政策が行われた場合に、適切な事後評価を可能とするデータ整備体制について、具体的に提案する。</li> </ul> </li> </ul> <p>2. 成果物及び活用方法(施策への反映)</p> <p>上記の検討結果等について整理し、報告書を作成する。報告書の内容は、今後の政策の在り方を検討する際に活用する。</p> <p>また、1. において、更なる調査が提案された場合には、次年度以降、当該提案を踏まえた調査の実施を検討する。</p>	1,000万円